



TITLE:

京大広報 号外

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

---

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 号外. 京大広報 1999, 9904n: 681-690

ISSUE DATE:

1999-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/196577>

RIGHT:



# 京大広報

(号外)

1999. 4

## 目次

### 入学式

学部入学式における総長のことば .....	682
大学院入学式における総長のことば .....	684

### 大学の動き

平成11年度学部入学式 .....	686
平成11年度大学院入学式 .....	687
名誉教授称号授与式 .....	688
平成11年度入学者選抜学力試験の結果 .....	689

### 医療技術短期大学部の動き

平成11年度医療技術短期大学部入学式 .....	690
医療技術短期大学部名誉教授称号授与式 .....	690
平成11年度医療技術短期大学部入学者 選抜試験の結果 .....	690



## 入学式

### 学部入学式における総長のことば

平成11年4月9日

総長 長尾 真

桜が咲きほこり春らんまんの中を入学されました一般入学生2,851名、外国人留学生等92名、合計2,943名の新入生諸君、京都大学入学まことにおめでとうございます。元総長、名誉教授の先生方の御列席のもとに、各学部長、さらに全学の教職員を代表して皆様に何よりもまずお祝いを申し上げます。

皆さんは長年の努力の甲斐あって、この日を迎えられる、充実した満足感を味わっておられることと存じます。また本日の入学式を迎えた新入生諸君をこのように立派にお育てになられましたご家族の皆様にも、お慶び申し上げます。

さて、諸君は大学に入ってこれまでとはかなり違った方法・考え方で勉強をせねばなりません。これまでの諸君の勉強はともすれば暗記が中心となり、この問題に対する答えはこうだといった形で試験問題を解いて来たのではないのでしょうか。数学の問題でも、だいたい問題のタイプが決まっていて、この種の問題に対してはこの公式を用いてこのように解けばよいといった道筋を記憶していて、いわば機械的に問題を解いて来たものと思います。

大学に入りますと、そのようなやり方は通用しません。自分で問題の内容をよく考え、こうすれば解けるだろうか、ああすれば論理の糸口が見つかるだろうか、というように、物事を深く考えることを大学の講義は要請します。京都大学においては、特にそのような考える能力を重視し、入学試験においてもよく考えねば解けない問題、精神を集中して考えれば解けるはずの問題を出題し、受験生諸君の考える能力をテストして来ました。諸君はそういった問題を放棄せず、積極的に挑戦し、良い成績を取ってめでたく合格されたものと思います。

京都大学では学問の基本的なところから、それぞれの専門分野に至るまで、非常に多くの科目を用意して諸君の勉学に備えていますが、何よりも大切なことは、諸君が学ぶ意欲をしっかりと持ち、在学中にどのようなことを達成しようとするかという目標を明確にすることです。入学して2、3カ月すると学問に対する意欲をなくす学生が現れること

がありますが、ぜひそのようなことがなく、この入学式における諸君の勉強に対する意欲を持続けていただきたいと思います。入学しさえすれば、あとは遊んでいてもなんとかなるといったことは、京都大学においては全く通用しません。

また、21世紀の社会を展望すれば、その特色の一つは、国際化がますます進むということであります。1989年のベルリンの壁の崩壊によって世界の政治・経済情勢は大きく変わりました。そして今日、西ヨーロッパは単一通貨ユーロの導入に至り、アメリカ極集中から別の方向へ動いてゆこうとしております。アジアにおいても中国が門戸を開き、日本とアジア諸国との関係はこれからますます密接なものとなってゆこうとしております。

企業活動も既にかかなり以前から地球規模で行われ、アメリカの大企業はもちろんのこと、日本の多くの企業も全世界を視野に入れて活動をしています。したがって企業活動において外国人と日常的に付き合うことになり、国内・国外といった区別なく世界中をとびまわって仕事をしなければならない時代となっております。これからはそういった状況だけでなく、外国人が日本に多数居住するようになるという形での日常生活における国際化も一層進むと考えられます。諸君はそういった社会において生活をし、また活躍することになるのですから、広い教養を身につけ、国際的視野を養い、日本の将来を考える人間に育っていった欲しいのであります。

したがって、これから始まる講義のそれぞれについて、自分が問題意識を持ち、それを自分で解決してゆくという能動的な意欲を持ていただきたいと思います。「自ら努力する者のみが報われる」ということであります。

大学で取り扱う問題のほとんどは、唯一の解答があるというのではなく、考え方、立場によって種々の答えがあり、そのうちのどれが正しいものであるかは決められないといった種類の問題であります。また場合によってはそもそも答えのない問題すらも取り扱います。例えば、そもそも学問とは何か、

なぜ我々は学問をしなければならないか、といった問題や、そういったことをつきつめてゆくと、人間とは何か、存在とは何かといった哲学の根本問題にまで行き着くでしょう。

そういったことを考えて、何になるのだという学生諸君がいるかもしれません。自分は専門的知識を身につけに大学へ来たのであって、そんな無意味で役に立たないことを考える暇はない、という人もいるでしょう。法律に書かれていることを全て憶えれば事たれりとか、機械の設計が出来るようになればそれでよいと割り切っている人がいるかもしれません。しかし、法律は人に適用されるものであり、機械は人が使い、人のために使われるものであることから、人間というものを考えずにそういった学問というものはありえません。

人間には想像力というものがあり、未知の物事を知りたいという気持ち、好奇心があります。これを否定して人間というものはありません。この想像力、知的好奇心こそが学問の持つ価値につながるものであり、これが人間の心を豊かにし、人格を形成し、文化をはぐくみ、社会をすばらしいものにしてゆくのであります。

諸君が京都大学でこれから4年間、あるいは医学部の場合6年間に学ぶことは、大別して二種類あると考えられます。その一つは将来社会へ出て進んでゆく方向に応じた専門的な知識や技術を学ぶことでありますが、これについては特に説明を必要としないでしょう。

もう一つはそういった知識や技術をどのように使えば問題がどのように解決できるかといった、物事を考える力を養うことであります。そこには物事を推論してゆく方法と、推論した結果が妥当なものであるかどうかを多くの周囲条件を考慮に入れて決定する判断力が必要となりますが、この判断力の要請ということは人格の陶冶なしには不可能なことなのであります。

こういったことに対して大学は諸君に種々の形で助言を与え、支援をすることは出来ますが、これを生かし本当に自分のものとして判断力、実行力をつけてゆくのは諸君の自覚によるのであり、諸君の自発的努力によるのであります。入学試験は諸君のそのような面のチェックはしておりません。諸君は学

力的には優秀ではありましようけれども、人生において最も必要とされる判断力と実行力という点での保証はないのであります。ですから、この4年間によく勉強するとともに、よき友人・先輩を見つけ、お互いに切磋琢磨し、種々の経験をすることによって人格を磨かねばなりません。

最近あまり言われなくなりましたが、「真善美」という言葉があります。正しいことを知り、正しいことを行う、これが真であり、大学の使命の第一は学生諸君にこの真に到る道をいろいろと教えることであります。しかし、社会を生きてゆく上において真だけでは十分ではありません。善という観点が必要となります。善には価値という視点が加わります。善は美とともにギリシャ以来の哲学の中心課題の一つであります。ここではそこには立ち入らず、ごく普通の常識的な議論をいたしますが、善に価値という概念が伴うのは、善には必然的に意志と行為が伴い、そして対象として他者の存在があるからであります。善は理性を超えた人間頭脳活動のより深い層に関係するもので、人格の多くの部分を担っているところといってよいでしょう。

さらに、その先に感性の世界があり、これが美と呼ばれているものに直接関係します。人間の頭脳活動の最も深い部分に関わっているものであります。善という価値観を超えたいわば絶対世界を指向するところに美というものの特徴があります。人格陶冶の究極の目標はこの美の感覚を身につけることであると言ってもよいと思います。

しかし、美とは何かを説明することは簡単ではありません。なぜなら美は理性的な説明という世界を超えた所にあるものだからであります。ただ、美は時間を忘れさせてくれ、また悠久の時間の流れを感じさせてくれます。そして何といっても感動を呼び起こし、崇高なものに対して憧れる心と呼び覚ましてくれます。美は現代人の持つ苦悩を認識させてくれるとともに、人の心を高め、豊かにしてくれます。このようにして美は、人間性を認識し、世界を見る眼を養い、社会を敏感に感じる人格を磨くのに大きな役目を果してくれます。

美は美術作品によって感知することができます。文学作品や音楽によっても触れることができます。また、世界文化遺産に指定された京都は、



町そのものが美の塊であります。社寺庭園はもちろんのこと、数々の国宝があり、また30分も歩けば山裾の静かな佇まいに身を置くことができます。そこには小川のせせらぎがあり、お地蔵様が祭られているといった世界があります。

京都大学に入学した諸君はそういった点で特に恵まれています。日本の伝統が今なお生き続けている京都という空間の中で学生生活を過ごし、自由に勉強し、物事を深く考え、美意識を磨くことのできる身の幸せを感謝しなければなりません。

しかし美はそういった対象世界にあるだけではありません。人の生き方の中にも美はあるのです。美は自分の目で見、体によって感じ、自分の感性によって発見するものであって、何の変哲もない所にもそれを感じることがあります。ただ、美を発見し、美を味わう力は長期間にわたる絶えまない努力によってしか培えません。現代芸術を味わうためには現代という時代とその時代精神を深く認識していなければなりませんし、諸外国の芸術を味わうというとき、それらの国の歴史と文化、現状といった背景を知っているといないとでは、その感じ方の深さと質が全く異なります。まして人の生き方の中や何でもないところに美を発見するには「こころ」が必要であります。

大学において諸君は善についてはある程度学び身につけることができるでしょう。しかし残念ながらこの美の感覚については教えることができるものではなく、諸君の京都での学生生活という実践を通じて体得してもらわねばなりません。

繰り返しになりますが、これからの社会においては真だけでは不十分であり、善を実践する努力をしなければなりません。ただ何が真であるか、何が善であるかを判断する基準は簡単でなく、究極的に何によって判断するかと問われれば、それはその人のもつ美に対する鋭い感覚によると言わざるを得ないのであります。そして美的感覚を磨いている人の判断はまず間違わず、その実践は正しく、また社会に対して善をもたらすことになるでしょう。

したがって、これからますます複雑化し、何が正しいかが明確化しない21世紀社会において、この美的感覚は欠くことのできないものであると思います。そういった意味で、私は「真善美」の中で美が最も高位に位置するものと考えており、京都大学という恵まれた環境に入ってくる新入生諸君に対しては、よく学ぶとともに、美的感覚を磨き、人格の陶冶を心がけていただくことを願うのであります。

諸君の大学生活が実り多いものであることを心から祈り、お祝いの言葉といたします。

## 大学院入学式における総長のことば

平成11年4月9日

総長 長 尾 真

平成11年度の京都大学大学院入学式を迎えられた2,264名の皆さん、入学おめでとうございます。ご列席の名誉教授の先生はじめ各研究科長とともに皆さんの入学を心からお慶びいたします。

皆さんの中には修士課程2年間で就職を目ざそうと思っている人と、博士後期課程において、博士の学位を目ざしている人とがいますが、いずれの場合も、学部の場合とは質のちがった勉強をしなければなりません。学部での勉強は専門分野の学問といっても、それぞれの分野の基本的なことを学んだにすぎません。専門分野の高度な内容は大学院において

学び、学問の最先端がどこにあり、現在何を問題にしているかを知るのであります。そして諸君もその先端部分の開拓の仲間入りをして、新しい創造的な研究をし、先端部分を押し広げてゆくことも期待されております。大学院時代に独創的な研究成果をあげた人はたくさんおられます。諸君も十分にそれが出来る力を持っているのですから、自信をもって大学院での勉強と研究をしていただくことを期待いたします。

さて、最近では、大学改革、大学院改革ということが言われています。京都大学では、いわゆる大学院

重点化を行い、教官は大学院に所属するようにし、大学院の充実を積極的に推進しております。京都大学ではこれまでの百年間に専門分野を徐々に増やして来て、かなり前から10学部において教育研究を行って来ました。しかし、これからの百年を見通すとき、伝統的な学問分野だけでは不十分であると認識し、21世紀に必要とされる学問分野を次々と開拓しています。

すなわち平成3年には人間・環境学研究科を発足させましたし、平成8年にはエネルギー科学研究科、平成10年にはアジア・アフリカ地域研究研究科、情報学研究科をつくりました。また本年4月には生命科学科学研究科を発足させることが出来ました。これらはいずれも既存の研究科の改組と併せて実現したもので、そういったことから、京都大学は大学院改革を積極的に推進してきた大学の一つであるということが出来るでしょう。こういった改革の検討は今後とも継続して行い、必要に応じてさらに新しい学問領域を創出しながら、21世紀においてその存在が世界から高く評価される大学になってゆかねばなりません。

日本は明治の初めにヨーロッパから大学制度を導入しました。その時ヨーロッパの学問領域を今日までいわば金科玉条のようにして守り、その中で大学は教育研究活動を行ってきました。ヨーロッパの学問は、必要に応じて分化・発展し、新しい学問分野を作ってきたという歴史を持っています。つまり、彼等はそうする学問的必然性があったからであります。しかし日本の場合には、明治時代に輸入した学問に対してアカデミズムとしての権威を与え、これを墨守し、そこからはみ出すものは垂流であるとして無視したり、排除する傾向さえ示すことがあったわけであります。

これを本学名誉教授の経済学者、伊東光晴先生は「日本は学問が学問として入って来て、それがアカ

デミズムとして権威を持っている。したがって日本の学者は必ず理論信仰である。ところが、実業界にいくと『理論と現実がちがう』というので卒業生は現実信仰に移る。この理論信仰と現実信仰との乖離が、日本の学問の病の中枢にあるし、また産業育成の中にも生じており、ここをよく考えなおしてみる必要がある」と言っておられます（『21世紀の世界と日本』岩波書店、1995）。

しかし日本の大学も百年以上の歴史を経験して来た結果、現実を直視し、そこから理論を構築し、新しい学問分野を打ち立てることが出来るようになるべく到達したといってもよいでしょう。京都大学において新しい研究科を幾つも作ったというのも、その現れであると言ってよいかもしれません。

私の経験を少し話させていただきますと、私は諸君のような年齢の時に工学部で言葉を取り扱う研究をやり始めましたが、人間の言葉を工学の対象とするなどということが、当時は全くばかげたことだといった観念が広く存在していた時代でありました。しかし今日の情報化時代においてコンピュータによる言語の処理は情報科学の中心的課題であるとまで認識されるようになっており、また学問的にもしっかりとした体系と豊富な内容を持つまでになって来ております。

皆さんも、これからの大学院生活において学問領域の境界などを気にせずに、自分がやるべきだと考えた新しいことにいろいろと挑戦していただきたいと思います。そして、与えられた問題を解決するというだけでなく、21世紀社会にとって欠くことのできない新しい重要な課題を自分で発見し、これに解決を与え、それを通じて新しい学問分野を創造してゆく気概を持って励んでいただきたいと思います。

皆さんのこれからの大学院生活が実り豊かなものとなりますよう期待いたしまして、私のお祝いの言葉といたします。

## 大学の動き

### 平成11年度学部入学式

4月9日(金)午前10時から、平成11年度学部入学式が、名誉教授はじめ来賓出席のもとに、本学総合体育館において挙行された。

入学式は、京都大学交響楽団による式典曲奏楽、京都大学合唱団による学歌斉唱に続いて、「総長のことば」があり、午前10時35分に終了した。

今年度の新入生数は、次表のとおりである。



学 部	募集人員	一 般 入 学 者	外国学校出身者 のための選考に よる入学者	小 計	外国人留学生		小計	第3学年 編入学者	再 入 学 入 者	小 計	合 計
					国費	私費					
総合人間学部	130人	134人	人	134人	1人	人	1人	人	人	人	135人
文 学 部	220	224		224	1		1	6		6	231
教 育 学 部	60	60		60	1		1	7		7	68
法 学 部	380	383	8	391		1	1	29		29	421
経 済 学 部	240	240	7	247	5	9	14	12		12	273
理 学 部	311	311		311	1		1				312
医 学 部	100	105		105							105
薬 学 部	80	85		85		3	3				88
工 学 部	985	986		986	1	7	8	7		7	1,001
農 学 部	300	308		308		1	1				309
合 計	2,806	2,836	15	2,851	10	21	31	61		61	2,943

## 平成11年度大学院入学式

4月9日(金)午後3時から、平成11年度大学院入学式が、名誉教授出席のもとに、本学総合体育館において挙行された。

入学式は、京都大学交響楽団による式典曲奏楽、

京都大学合唱団による学歌斉唱に続いて、「総長のことば」があり、午後3時30分に終了した。

今年度の新入生数は、次表のとおりである。

研究科	修士課程				博士後期課程											
	入学者	外国人留学生		合計	編入 入学者	外国人留学生(編入)		再入 学者	外国人留学生(再入)		小計	進学者	外国人留学生		小計	合計
		国費	私費			国費	私費		国費	私費			国費	私費		
文学研究科	112 <sup>人</sup>	4 <sup>人</sup>	3 <sup>人</sup>	119 <sup>人</sup>	6 <sup>人</sup>	1 <sup>人</sup>	1 <sup>人</sup>	<sup>人</sup>	<sup>人</sup>	<sup>人</sup>	8 <sup>人</sup>	69 <sup>人</sup>	1 <sup>人</sup>	<sup>人</sup>	70 <sup>人</sup>	78 <sup>人</sup>
教育学研究科	37		2	39	2						2	29		2	31	33
法学研究科	56	3	6	65	1			1		2	4	15		3	18	22
経済学研究科	39	1	17	57	3	2	3				8	31	1	2	34	42
理学研究科	241	2		243	38						38	148	8	1	157	195
薬学研究科	77	1	1	79	1	1	1				3	22	1		23	26
工学研究科	590	4	14	608	20	10	8				38	67	4	6	77	115
農学研究科	252	8	5	265	13	5	8				26	88	5	2	95	121
人間・環境学 研究科	119	4	4	127	18	4	1				23	62	4	3	69	92
エネルギー 科学研究科	113		3	116	9		1				10	14		1	15	25
情報学研究科	178	5	10	193	12	2	1				15	11		1	12	27
合 計	1,814	32	65	1,911	123	25	24	1		2	175	556	24	21	601	776

研究科	博士課程				
	入学者	外国人留学生		転入学者	合 計
		国費	私費		
医学研究科	141 <sup>人</sup>	1 <sup>人</sup>	12 <sup>人</sup>	1 <sup>人</sup>	155 <sup>人</sup>

研究科	一貫制博士課程				
	入学者	外国人留学生		転入学者	合 計
		国費	私費		
アジア・アフリカ 地域研究研究科	21 <sup>人</sup>	2 <sup>人</sup>	<sup>人</sup>	<sup>人</sup>	23 <sup>人</sup>



## 名誉教授称号授与式

4月6日(火)午前10時30分から、名誉教授称号授与式が、京大会館において挙行された。授与式は、部局長の出席のもとに行われ、称号授与のあと、「総長のあいさつ」があり、午前11時10分終了した。称号を授与された方は、次の40名である。



(氏 名)	(推 薦 部 局)	(氏 名)	(推 薦 部 局)
村 鳶 由 直	(農 学 研 究 科)	筏 義 人	(再生医科学研究所)
志 田 忠 正	(理 学 研 究 科)	堂 下 修 司	(情 報 学 研 究 科)
池 上 詢	(エネルギー科学研究科)	朝 木 善 次 郎	(工 学 研 究 科)
杉 山 幸 丸	(霊 長 類 研 究 所)	中 村 泰 人	(工 学 研 究 科)
齋 藤 久 美 子	(教 育 学 研 究 科)	喜 志 哲 雄	(文 学 研 究 科)
鈴 木 仁 美	(理 学 研 究 科)	石 坂 恭 一	(人間・環境学研究所)
大 谷 晋 一	(総 合 人 間 学 部)	内 本 喜 一 朗	(工 学 研 究 科)
成 田 孝 三	(文 学 研 究 科)	村 本 嘉 雄	(工 学 研 究 科)
松 井 正 和	(化 学 研 究 所)	渡 辺 信 三	(理 学 研 究 科)
田 中 寅 夫	(防 災 研 究 所)	砂 本 順 三	(工 学 研 究 科)
今 里 哲 久	(理 学 研 究 科)	小 林 啓 祐	(工 学 研 究 科)
橋 本 健 治	(工 学 研 究 科)	櫻 井 正 一 郎	(総 合 人 間 学 部)
木 村 逸 郎	(工 学 研 究 科)	河 野 昭 一	(理 学 研 究 科)
清 水 御 代 明	(文 学 研 究 科)	泉 孝 英	(医 学 研 究 科)
加 藤 邦 男	(工 学 研 究 科)	田 丸 啓 吉	(情 報 学 研 究 科)
原 田 誠	(エネルギー理工学研究所)	小 林 昭 一	(工 学 研 究 科)
本 庄 巖	(医 学 研 究 科)	藪 下 信	(情 報 学 研 究 科)
川 那 辺 三 郎	(農 学 研 究 科)	大 野 惇 吉	(化 学 研 究 所)
上 杉 孝 實	(教 育 学 研 究 科)	海 原 徹	(人間・環境学研究所)
前 田 豊	(原 子 炉 実 験 所)	山 崎 稔	(農 学 研 究 科)

## 平成11年度入学者選抜学力試験の結果

平成11年度入学者選抜学力試験（第2次学力検査）の前期日程試験は2月25日（木）・26日（金）に、後期日程試験は3月13日（土）・14日（日）に実施した。

学部別の受験者数、合格者数及び入学者数等は次表のとおりである。

学 部	(A) 募集人員	(B) 志願者数	(C) 倍率 (B/A)	(D) 第1段階選 抜合格者数	(E) 受験者数	(F) 倍率 (E/A)	(G) 欠席者数	(H) 欠 席 率	(I) 合格者数	(J) 追加合 格者数	(K) 入学者数
総合人間学部	130人	人		人	人		人	%	人	人	134人
前 期	55	199	3.6	193	192	3.5	1	0.5	56		
後 期	55	176	3.2	173	172	3.1	1	0.6	56		
後 期	20	396	19.8	321	191	9.6	130	40.5	23		
文 学 部	220										224
前 期	190	597	3.1	597	589	3.1	8	1.3	193		
後 期	30	399	13.3	300	153	5.1	147	49.0	31		
教 育 学 部	60										60
前 期	40	133	3.3	133	132	3.3	1	0.8	40		
後 期	20	129	6.5	129	82	4.1	47	36.4	20		
法 学 部	360										383
前 期	330	903	2.7	903	890	2.7	13	1.4	342		
後 期	30	490	16.3	414	148	4.9	266	64.3	43		
経 済 学 部	230										240
前 期	160	508	3.2	508	501	3.1	7	1.4	165		
後 期	50	234	4.7	232	222	4.4	10	4.3	52		
後 期	20	538	26.9	538	345	17.3	193	35.9	26		
理 学 部	311									1	311
前 期	280	970	3.5	937	919	3.3	18	1.9	281		
後 期	31	1,073	34.6	1,029	691	22.3	338	32.8	31		
医 学 部	100										105
前 期	90	404	4.5	404	392	4.4	12	3.0	93		
後 期	10	213	21.3	151	84	8.4	67	44.4	12		
薬 学 部	80										85
前 期	70	236	3.4	236	228	3.3	8	3.4	74		
後 期	10	158	15.8	158	108	10.8	50	31.6	11		
工 学 部	985										986
前 期	883	2,316	2.6	2,316	2,286	2.6	30	1.3	884		
後 期	102	1,103	10.8	1,004	558	5.5	446	40.4	104		
農 学 部	300										308
前 期	240	800	3.3	800	790	3.3	10	1.3	249		
後 期	60	872	14.5	872	542	9.0	330	37.8	62		
小 計	2,443	7,476	3.1	7,432	7,313	3.0	119	1.6	2,485		
後 期	333	5,371	16.1	4,916	2,902	8.7	2,014	37.5	363		
計	2,776	12,847	4.6	12,348	10,215	3.7	2,133	17.3	2,848	1	2,836

（注）受験者数・欠席率は最終教科のものである。

〔外国学校出身者のための選考の実施結果〕

学 部	(A) 募集人員	(B) 志願者数	(C) 倍率 (B/A)	(D) 第1次選考 合格者数	(E) 受験者数	(F) 倍率 (E/A)	(G) 欠席者数	(H) 欠 席 率	(I) 合格者数	(K) 入学者数
法 学 部	20以内人	45人	2.3	26人	13人	0.7	13人	50.0%	8人	8人
経 済 学 部	10以内	29	2.9	15	11	1.1	4	26.7	7	7

## 医療技術短期大学の動き

### 平成11年度医療技術短期大学部入学式

4月7日(水)午前10時から、平成11年度医療技術短期大学部入学式が、名誉教授をはじめ来賓出席のもとに、本短期大学部講堂において挙行された。

入学式は、学長式辞、来賓祝辞があり、午前10時25分終了した。



### 医療技術短期大学部 名誉教授称号授与式

4月7日(水)午前9時30分から、医療技術短期大学部名誉教授称号授与式が、本短期大学部会議室において挙行され、高橋清之元教授、中村定男元教授に称号が授与された。

授与式は、称号授与のあと、「学長のあいさつ」があり、午前9時40分終了した。



### 平成11年度医療技術短期大学部入学者選抜試験の結果

医療技術短期大学部では、平成11年度入学者選抜試験を3月2日(火)、3月3日(水)に実施し、その合格者を3月12日(金)に発表した。ただし、助産学特別専攻の入学者選抜試験は1月29日(金)に実施し、合格発表は2月4日(木)に行った。

受験者数、合格者数及び入学者数等は次表のとおりである。

区 分	募 集 人 員	志 願 者 数	受 験 者 数	合 格 者 数	入 学 者 数
看 護 学 科	80 人	231 人	195 人	120 人	80 人
衛 生 技 術 学 科	40	389	325	66	39
理 学 療 法 学 科	20	259	231	29	22
作 業 療 法 学 科	20	202	166	30	20
小 計	160	1,081	917	245	161
助 産 学 特 別 専 攻	20	101	88	20	20
合 計	180	1,182	1,005	265	181